記入例

様式第１号（第３条関係）

（表面）

ひたちなか市教育委員会

奨学生願書

ふりがな　たろう 氏名　ひたちなか　太郎	※（男）・　女 平成〇〇年〇〇月〇〇日生 （満〇〇歳）	奨学資金の貸与希望期間 令和９年　４月から 令和１３年　３月まで ４年　月間

進学希望校又は在学校	高等学校専攻科 高等専門学校　科　第　学年 専修学校　課程　学部　科 〇〇大学　〇〇学部　〇〇科
	所在地　〇〇県〇〇市〇〇〇〇
希望する奨学資金	※（奨学金）・　入学準備金　入学準備金の申請額　円
本人	住所　ひたちなか市〇〇〇〇　（　方） 電話番号　〇〇〇（〇〇〇）〇〇〇〇
家族住所	ひたちなか市〇〇〇〇　（　方） 電話　〇〇〇〇

家計支持者の続柄の前に〇を付けてください。

家族の状況	続柄	氏名	年齢	職業	勤務先	年収（税込）	父又は母死亡のときはその年月日	就学者の在学校名	学年	通学方法	現在までの市奨学資金貸与の有無
	父	ひたちなか一郎	歳 46	会社員	〇〇㈱	円 4,800,000	（　歳）				
	母	ひたちなか花子	45	パート	〇〇製作所	1,023,000					
	本人	ひたちなか太郎	18	大学生				〇〇大学	年 1	※ 自宅・自宅外	※ 有・無
	×姉	ひたちなか勝子	20	大学生				〇〇大学	3	自宅・自宅外	有・無
	妹	ひたちなか湊子	17	高校生				〇〇高校	2	自宅・自宅外	有・無
		ひたちなか次郎	78	無職		2,400,000				自宅・自宅外	有・無
										宅外	有・無
	合計（　5人）										

別居の場合続柄の前に×をつけてください。

年金「恩給・老齢年金等」の収入金額を記入してください。

×申請番号	本市前奨学生	決定番号と学校名	貸与期間	借用証書提出年月	×	×決定番号
			年　月から	年　月		第　号

家族の状況は，申請時点の状況を記入してください。

（裏面）

家族経済状況及び奨学資金貸与希望理由	姉は東京都にある大学に進学し，自宅外通学をしており，妹は私立高校看護科2年に在学中です。また，祖父は腎臓が悪く入退院を繰り返していて，今後，病状が悪化すれば，腎臓透析が必要になると言われているため，母親は，現在の週3.5日の就労を短縮する必要が出てくることが予想されます。 現在でも，学費・生活費・医療費の出費が大きい状況ですが，私が私立大学に進学することを希望しているため，両親の経済的負担を少なくしたいと思い応募しました。	
本人の履歴	○○年　3月ひたちなか市立○○中学校卒業	年
	○○年　3月県立○○高校卒業	年
	年　月	年　月

奨学金希望者本人が,家庭事情や経済的な状況について,詳細に記入してください。

以上のとおり記載に相違ありません。

奨学生として採用の上，奨学資金の貸与をお願いします。

なお，採用の上は，ひたちなか市奨学資金貸与条例の規定に従い，奨学生としての責務を果たすことはもとより，奨学資金の返還その他の義務についても，両名連帯の責任を負うことを誓約します。

令和○年　○月　○日

本人　氏名（署名）　ひたちなか　太郎

連帯保証人　住所　ひたちなか市○○○○

氏名（署名）　ひたちなか　一郎

続柄　本人の（　父　）

昭和○○年　○月　○日生

ひたちなか市教育委員会　殿

（記載上の注意）

1　※印の箇所は，該当するものを○で囲み，×印の箇所は記入しないこと。

2　家族の状況のうち，続柄の前に，家計支持者には○印を，別居者には×印を付けること。

3　家族経済状況及び奨学資金貸与希望理由は，具体的かつ詳細に記入すること。

4　本人の履歴は，休学，転学，退学，身分の異動等も理由を付して記入すること。

5　連帯保証人は，父母又はこれに代わる者（本人が未成年者であるときは，その法定代理人）で，市内に住所を有し，将来奨学資金返還の責任を負いうる者であること。

なお，出願の際は連帯保証人１人でよいが，奨学生として採用されたときは，更に別の保証人１人を要するので，あらかじめ考慮しておくこと。

6　所定欄に記入のないものは，判定材料を欠くものとして不採用とすることがある。